

第6回大阪府四條畷市未来技術地域実装協議会 議事概要

日時:令和6年5月16日(木) 13時~14時30分

場所:四條畷市立グリーンホール田原 「なるなるホール」

議事概要

事務局から出席者紹介

主催者挨拶

(四條畷市長 東 修平)

皆さま、改めまして、こんにちは。

この取り組みですが、足掛けで言いますと8年目くらいになります。四條畷地域は山を挟んで2つの大きなエリアに分かれておりまして、こちらの東部は田原地域と呼ばれており、約9000名の方がお住まいいただいております。大阪府の中で、山を越えて府域をもっているのは四條畷市だけでございます、そういう意味では大阪府においても大変個性豊かな地域であると思っております。といいますのも、田園風景が残るそうした景色の中に、新しく開発された田原台という地域がある。限られた面積の中に2つの魅力を持っている。そんな地域と思っております。

田原地域をもっともっと住みやすくしていく、どうやってより魅力的に次世代に紡いでいくか、そんな思いで、約7、8年前に、地域の皆さんと一緒に、この田原をどんなまちにしていきたいか会議をしました。アンケートも取りました。地域の皆さんと一緒に視察にも行きました。そうしたなかで、この田原地域がこんな風になったらいいねといういろんなビジョンを描いてまいりました。

このエリアにとって大きな課題となっているものがいくつかあり、その中の1つが移動、交通手段です。行政としてできることは何だろう、地域の皆さんとどうやってこのまちを良くしていけるだろう。そういう思いでたどり着いた結論の一つが、自動運転でした。それを、令和元年あたりに行政としてやっていこうと決めまして、内閣府の未来技術社会実装事業に応募させていただいた結果、全国十数団体の1つに選んでいただいたという歴史がございます。

そして令和2年度から、こちらにいらっしゃる現地支援責任者の国土交通省様をはじめ、国関係機関、大阪府関係機関、学識の方、何よりも地域の皆さま、多くの皆さまのお力添えをいただきながら、コロナという逆風もある中で、様々に実証実験を繰り返してきました。実証期間を決めたり、違うタイプの車を走らせたり、どんな風にしたら未来に長くこの取り組みが続けていけるかというのを、地域の皆さまと考えていきたい。そういう1年1年の取り組みの積み重ねがあって、本日を迎えられていると思っております。

この後、これまでの取り組みと令和6年度の取り組みを担当からご報告させていただきますけれども、もっともっと良くしていける部分、まだまだ改善していける部分、そして我々からお願いをさせていただかなければいけない部分が多々あるかと思っております。せっかく皆さまにお集まりいただいておりますので、より良いものを皆さんと一緒に作り上げたいという思いをお伝えしますとともに、改めてこれまでのご協力に心から感謝を申し上げまして、簡単ではございますが挨拶に代えさせていただきます。本日はどうぞよろしくお願いいたします。

現地支援責任者 挨拶

(近畿地方整備局大阪国道事務所 志々田所長)

ただいまご紹介いただきました現地支援責任者を務めさせていただいております近畿地方整備局大阪国道事務所長の志々田と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

今日ご参加の地域の皆様、関係者の皆様におかれましては、日頃より国土交通行政、特に私共としては道路行政に、色々な面でご理解、ご支援をいただきまして誠にありがとうございます。

今回こちらの実装事業につきましては、先ほど長い歴史につきましても市長からご紹介をいただいておりますが、内閣府で採択された本事業につきましても、令和2年度から実装事業として我々も含めて取り組んでおるものでございます。地域の方々におかれましては、実証事業、検証を繰り返していただいて、今に至っているものと理解しております。今年度は、私共道路管理者の立場としても、自動運転に関しましては、路車協調システムにも取り組んでまいりますので、そういった面からも参画をさせていただきたいと考えております。また新しい取り組みを取り入れながら、皆様の長い取り組みの一助とさせていただけたらと思っておりますので、そちらも含めて、どうぞよろしくお願いいたします。

(1) 議事1 令和5年度事業報告について

【事務局から説明】

(2) 議事2 令和6年度事業について

【事務局から説明】

(大阪府スマートシティ戦略部)

・大阪府内の取り組みとして把握しておきたいのですが、自動運転につきまして、スケジュールでは2024年までのものになっております。具体的に取り組む内容としてはレベル4に向けた取り組みを進めていく。そして補助金が取ればという条件が付くと思うのですが、どれくらいの時期に、レベル4の社会実装という逆算での取り組みでしょうか。

(事務局)

→今月末からレベル2で実装を開始したところでございます。より安全な自動運転の走行をめざしましてレベル4をめざした実証実験、3月に路車協調システムの実証実験の採択を頂いたところでございます。併せまして秋ごろには、実証実験をしていきたいと考えておりますので、それを踏まえた中で今後のスケジュールを考えていきたいと考えております。

(市長)

→レベル4については、実証実験をしてみないとどの段階でというのは難しいところではございますが、いかに市民の皆さんにとって安全な自動運転を実現するかというのが非常に重要な点です。特に先端技術ですので、市民の皆さんの中には、安全面等に、これだけ社会で自動運転が言われるようになって不安感がある方がいると思っておりますので、しっかり技術の力を借りながら、安全に運行できる様に、着実に実証実験を重ねてより安全をめざしていけたらと考えております。

(大阪府スマートシティ戦略部)

・都市OSの内容につきましては、大阪府で構築したデータ連携基盤ORDENがありますのでぜひ四條畷市の取組みにおいても活用の検討をしていただきたいと思います。

(わたしのいえ・ほっこり)

- ・ルートの件ですが、上田原の公民館利用をしようとしたが、公民館の場所が不便で集まりにくい。足の悪い方、運転をやめられた方にとって使いにくいと実感している。カフェミーティング等でもお伝えしたが、今回の自動運転ルートに公民館は入っていない、そして反対周り（時計回り）を検討していただきたい。地域活性化のために運行の手立てを一緒に考えていただきたい。月1回だけ決まった日だけでもいいですし、有料になったら補助金等でカバーすることも考えております。

(事務局)

- 地域の高齢者の方、これから免許返納される方が地域の中で移動できるようにというのもこの取り組みを始めた理由の一つでもあります。地域のボランティアの皆様と運行しているので調整のうね検討していきたいと思います。

(市長)

- 地域の皆さんに使っていただくことが第一ですが、一方で道路等の規制もあるので、どのような形でできるかを一緒になって考えていきたいです。

(地域自治組織の代表者)

- ・運行にあたって検討する中で、反対周りも一つの検討課題でもありますし、もう一つの課題が、低速走行だけに、周りの車に迷惑をかけてはいけないという前提があります。なかなか大きな道路を走行できない、大きな道路を横断することができないという中で運行しなければいけないということです。大きな道路を走行させるとなると、このような低速自動車は邪魔になってしまいます。また低速車は、通過車両の犠牲になってしまいます。相反する課題を解決するためには、ぜひ関係各部署においては、通過車両に納得してもらえるような交通ルールや情報発信を考えていただきたい。

(田原支所長)

- 低速の車と一般の車が走るということについて、安全運行の指導をいただいている中で、現状は大きな幹線道路を控えて運転しています。先ほど委員からご要望があった上田原公民館ですが幹線から外れております。幹線道路ではないルートですので関係機関及びTCCと調整させていただきます。月1回程度の運行については、反時計回りの設定をさせていただいていることから、手動で時計回り等、安全第一で関係機関とじっくり検討させていただき、地域の方の移動手段になればと考えております。

(市長)

- 一般車両と低速自動運転車が共存するという環境は、地域の方及び一般車両の方にとっても未知の領域です。日本でもまだ共存している地域がそんなにあるわけではありません。自動運転がこれから社会に普及していくなかで、日本全体の課題になっていきます。そのなかで、情報発信は非常に大事になっていきます。田原ではこのような取り組みをしていて、TCCが走っているということ、市としてもどれだけ積極的に周知できるかによって、「聞いたことあるな、お互い譲り合って移動しようかな」と思ってもらえる環境にしていきたい。

規制は手法の一つではあるが、すべてを規制で縛っていくまちづくりは、私はあまり望ましくなく、双方が尊重しあえるまちづくりが一番。道路は誰かのためだけのものではなく、皆さんのものであり、まずは自動運転の技術を上げて安全確保を第一にしながら、こ

れからの自動運転社会が到来する先駆けのまちになりますので、こういった情報発信をすれば、通過交通される方にも理解してもらえるか、情報発信も含めて一緒に考えていきたいと思
います。

(独立行政法人関西文化学術研究都市推進機構)

- ・学研都市全体でまちづくりを取り組んでおりまして、今回素晴らしいと思ったところは、実証実験、イノベーション等をカフェミーティング等で住民の皆さんと一緒に取り組んでいる。まさに新しいまちづくりの形になっている。このことを学研都市の様々な会議で発信させていただきたいです。

(市長)

- けいはんな地域に入っているというのも田原地域の個性の一つです。私たちには、地域の皆さんと事あるごとに意見を交わしながら、どのようにしていったら良いかという議論を積み重ねてきた歴史があると思っております。そこを一定評価いただけたというのは、関わってきた職員を含めて励みになります。ありがとうございます。

(わたしのいえ・ほっこり)

- ・令和5年度の事業報告書にて未利用地の活用が期待される機能としてキャンプ場が記載されております。四條畷市野外活動センターもキャンプ場があり、田原地域から車で10分ほどで行ける場所にあります。もう一つ、寝屋川市野外活動センターも田原地域から車で10分ほどで行ける距離にあります。どちらも子どもたちに人気で、四條畷市内の子ども会や小学校の遠足等で活用されています。既に近隣にキャンプ場がある中で、さらに新たにキャンプ場を市と民間が連携して運営していくと考えておられる。その3者が共存していけるような形も含めてご検討いただければと思います。

(田原支所長)

- この調査をかけるにあたって、近隣の施設が重要になってきますので、そのあたりを事前に調査させていただいて、キャンプ場であったり、子どもたちが遊べる場所というのがたくさんあるのが一点です。もう一つが、公共施設の今後の在り方というのを四條畷市であったり、寝屋川市は計画しています。その中で四條畷市の公共施設の在り方の中では、キャンプ場については他市との連携というのが計画の中に謳われていたり、他市の方でも同様に連携というのがございます。このあたりについては、教育委員会が社会教育施設を持っているので意見交換させていただきながら丁寧な対応をしていきたい。

また、民間に聞き取りさせていただいた時に聞いたのが、子どもたちが四條畷市の野外活動センターに行くのに、子どもたちだけで行けないという問題があります。車で送迎しなければ行けない問題があったり、素敵な施設ではございますが若干老朽化してきている所があります。あとは、駐車場問題があり、現施設は幹線道路を渡らなければ、施設にたくさんの方が入れないというのがございます。そのあたりを踏まえながら、田原地域の中で子どもたちが体験できる場、まだキャンプ場を作るという所まで来ておりませんので、子どもたちが体験できるフィールドとして使っていければと思いますので、そのあたり民間事業者の意見も聞きながら対応していきたいという風に思っています。

(地域自治組織の代表者)

→キャンプ場であれば、近隣に生駒市の野外活動センターもあります。四條畷市のすぐそばにあり、よく間違っ生駒市の方に入ってしまったります。自然が豊かな場所ゆえに、キャンプ場を設営して利用するという事になっている。

生駒市はアスレチックが人気だという風に聞いています。同じようなものを作ってしまうというのは競合するだけですので、できるだけそれぞれの特徴を生かしながら、連携し楽しめる施設になればいいと思います。

(市長)

→公と民の役割の分担が、この10年、20年、直近を含めて、色々な在り方が出てきています。従来の考え方で未利用地を行政が活用するとなると、公設公営が想定されていました。市の方向性として、人口の絶対数も減少してきているなかで、公共施設を増やしていくという事は考えていない。限られた税収をどう使っていくかという点で、公共の部分をどんどん広げていくというのは難しいため、民間事業者様と役割分担していくことが非常に重要だと考えています。

事業報告でお示している未利用地は、斜面地で、活用するのが難しい形状をしているので、現時点まで活用されていないのですが、樹木の管理の問題もあります。そういうなかで、民間事業者の資本を活用して整備していくにはどういう形態がいいのか考えていきたい。結論として、どういうものを作るかも大事ですが、民間事業者とも一緒になって地域の方にも楽しんでいただけるものを、頂いた視点等を踏まえて、また自動運転と連携しながら考えていきたいと思っています。

(わたしのいえ・ほっこり)

・カフェミーティングに参加する人たちは地域の活性化について理解を深めることができるが、ここに住んでいるが参加しない人たち、また西部地域の人たちへの広報をもっと本気で考えていきたい。

(田原支所長)

→田原地域版の広報である「たわら通信」を発信しています。それだけでは手の行き届かないところを地区の新聞で発信いただいているのはありがたいことです。住民参加をもっと積極的にするために、色々な発信の仕方を様々なメディアを通じて頑張っていきたいです。

(3) 議事3 その他

【事務局説明】

(わたしのいえ・ほっこり)

・地域コミッティとはどのようなものでしょうか。

(市長)

→これから、現在の自動運転のレベル2からレベル4をめざして実証実験を行っていくこととなります。この事業に採択された場合、事業開始までに地域の皆さま及び関係機関等と地域コミッティを組成していく必要があります。この地域公共確保維持改善事業費補助金を申請するのではあれば、地域コミッティを作りなさいという国の指導・条件ですが、この田原地域の実態

上、もうすでにコミッティがほぼ出来上がっているような状態です。ほぼ参画メンバーもこの会議にご出席いただいている方のような構成になると思います。未来技術社会実装事業については、現地支援責任者のもと事業を推進していきますが、今後採択されすと自動車局の地域コミッティという組織体が出来上がるという、各部局によって交付金、補助金をもらう場合にルールがありますので、そのルールに則ったなかで、構成団体を作らないといけないということになります。

(地域自治組織の代表者)

・国に申請して、地域コミッティを構成することで技術面のサポートももらえるのか。

(田原支所長)

→この地域コミッティを各省庁や関係機関等で構成する中で、資金面も含めて自動運転に関する技術支援を頂けると考えております。

(大阪府スマートシティ戦略部)

→地域コミッティは国への申請ごとに作ることになっているため、四條畷市でも個別の地域コミッティを構成することになっております。国の資料では都道府県の参加は任意で、対象を公共交通セクションとしています。この点、大阪府庁で公共交通を所管する都市整備部は、地域公共交通会議への参画と同様に、要請があれば所掌事務の範囲として問題なく参加すると聞いておりますので、必要に応じて声掛けをいただければと考えております。スマートシティ戦略部は、同じく都道府県の部局ではあるが、取り扱いが異なり、国の資料でいうと協力団体という位置づけで参加させていただくことになると整理しています。

(わたしのいえ・ほっこり)

・この実装協議会にたわらコネクタート「TCC」が入るのか、新しい地域コミッティに入るのか教えていただきたい。

(田原支所長)

→TCCと四條畷市が今一緒に運行しておりますので、必須構成員になるのか任意構成員になるのかは、採択後に問い合わせいたしますが、現在TCCは運行主体として理解しておりますので、地域コミッティには、参画していただくこととなります。未来実装協議会については、内閣府の未来技術実装事業の最終年度がR6年度までの事業ですので、今後どうなるかは関係省庁とご協議のうえ、この協議会をいったん終了して地域コミッティに移るのか、また別の形にするのかも含めて今後協議します。